

共同運営部門：内視鏡検査センター

—スタッフ—

役 職	スタッフ名
センター長兼消化器内科部長	高谷 宏樹
消化器内科副医長	中野 智景
消化器内科医員	入 彩加
非常勤医師	月曜 午前2名, 午後1名
	火曜 午前午後2名
	水曜 午前午後2名
	木曜 午前1名, 午後2名
	金曜 午前2名, 午後1名

—概要—

2019年4月より入 彩加医師を常勤で迎えた。

内視鏡室看護師を専任とし、休日夜間も対応可能とした。常勤医師の増加と専任看護師にしたことで休日夜間の緊急内視鏡に対応しやすくなった。通常の内視鏡検査・処置件数も大幅に増加した。

内視鏡学会指導医・専門医1名、専門医2名(内外科医1名)が当院に常勤として在籍しており日本消化器内視鏡学会認定指導施設となっている。

当院で研鑽を積むことで日本消化器内視鏡学会認定専門医の取得が可能である。

—実績—

内視鏡件数

上部内視鏡検査	3,000件
止血術	45件
ステント留置	10件
上部EUS	60件
ESD	45件
ERCP関連処置	220件
胆膵EUS	292件
下部内視鏡検査	1,880件
コールドポリペクトミー	290件
止血術	25件
粘膜切除術	343件
大腸ESD	22件
ステント留置	15件

—今年度の成果と反省点・来年度への抱負—

内視鏡スコープの更新をした。上部では経鼻挿入も可能でかつ高画質のスコープも4本購入し、検診や人間ドックの被験者からの評価も向上し、検査数も増加した。また下部では全機種ウォータージェットつきの機種を導入し、腸管内の洗浄が行いやすくなり診断精度も高まった。また、ERCPのスコープも更新したことで高難易度なERCP関連処置も行えるようになった。さらに昨年度購入した超音波内視鏡スコープの使用件数が大幅に増加し胆膵悪性疾患の早期発見が増え、さらに進行癌でも診断レベルが向上した。

しかし、内視鏡検査室の不足のため検査数が制限されてしまっている。ファイリングシステムの老朽化のためせっかく撮影した高精細な画像を保存できないことが残念である。これらに対しては今後拡張工事とファイリングシステムの更新の予定であり、今後に期待できる。

2017年度から内視鏡センターを整えてきた。検査数、処置数、診断レベルも向上してきた。今後もさらなる向上を目指しつつ、地域の消化器内科、消化器内視鏡医療に貢献していきたい。